



リノベーションまちづくり講演会 「地元愛を育む暮らしと、その先にある未来～熱海の奇跡の裏側～」を開催！

みどり市 産業観光部 観光課

■ はじめに

令和4年10月17日(月)に、リノベーションまちづくり講演会「地元愛を育む暮らしと、その先にある未来～熱海の奇跡の裏側～」を開催しました。

■ 講演会内容

書籍「熱海の奇跡」の著者である市来広一郎さんをお招きし、熱海市の商店街「熱海銀座商店街」等の再生に取り組み空き店舗を解消した事例を交え、参加者にまちづくりに必要なことを呼びかけました。

一番の驚きを感じたのは、観光地とされる熱海市でさえ、まちの人に熱海市の良いところを訪ねると「何もない」との回答が大多数で、同市の魅力に気がついていない状況であったそうです。そうした状況からまちのファンづくりのためのガイドツアー(以下「オンたま」という。)を開催し、今まで開催したツアーは200を超えるとのことでした。

こうしたオンたまの小さな積み重ねが今に通じている訳ですが、オンたまは「地域の苗床」であるとのこと次のような説明がありました。

- ・ 徹底的に地域を掘り起こす(ないものねだり→あるものを活かす)
- ・ 資源を磨き上げる、育てる
- ・ 一番の地域資源は“人”
- ・ 地域には起業のネタはあるが苗床がなかった

「苗床がない」にはハッとさせられました。種を蒔いたとしても土壌がなければ育たない。当たり前のように見落としがちなことだと思います。しっかりとした土壌をつくり、一番の資源である“人”が育つようにしなければと誓った日となり、講演会の最後に市来さんから「みなさんの力でこのまちのポテンシャルを引き出して欲しい。小さくてもいいのでアクションを起こしてほしい」という言葉が強く心に残っています。

■ リノベーションまちづくり始動！

今回の講演会は今年度から当市が取り組む「リノベーションまちづくり事業」の一環として開催しました。「リノベーションまちづくり」は今ある資産を活用して自治体の都市・まちの課題を解決していく手法で、ここでいう「今ある資産」とは遊休不動産などの空間資源にとどまらず人的資源や歴史的資源も含んでいます。

今年度は講演会を中心に「リノベーションまちづくり事業」の周知を図るほか、都市課題解析のためのワークショップを開催し、次年度以降はリノベーションスクールの開催を予定しています。

■ 最後に

「まちづくり」は「ひとづくり」であることをあらためて感じる講演会でした。今回の講演会を通じ、「小さくてもアクションを起こす人」が増えてくれることに期待しています。

そうそう、期待だけではなく自ら行動ということで「まちにダイブ」してきます！

まちを「使い倒してくれる人」を募集中です！



講演会 オープニング画面



講師：市来広一郎氏



熱心に質問する高校生